

**Futures: Inspiring Social Innovation
– Across Sectors, Across Borders –
【Social Innovation X Aging Society】**

**英国社会イノベーションジャーニー
～高齢社会における社会イノベーションと
未来を創る多様なプレーヤー～**

訪問プログラム及びスケジュール

2012年12月2日(日) - 12月9日(日)

1. 参加者リスト

	所属	部署名／役職名	名前
1	NPO 法人 ETIC.	リサーチ&コミュニケーション マネージャー	石川 孔明
2	花王株式会社	アクティブシニア事業センター マネージャー	川野 千晴
3	独立行政法人科学技術振興機構	研究開発戦略センター フェロー	嶋田一義
4	株式会社クレアン	サステナビリティ・コンサルティンググループ コンサルタント	山口 智彦
5	株式会社乃村工藝社	事業開発本部 マーケティング部	北川 春香
6	株式会社富士通研究所	R&D 戦略本部 シニアマネージャー	岡田 誠
7	株式会社富士通研究所	ソフトウェアシステム研究所 インテリジェントテクノロジー研究部	原田 博一
8	株式会社フューチャーセッションズ	代表取締役 社長	野村 恭彦
9	株式会社フューチャーセッションズ	マネージャー/Next! Graffitiist	笥 大日朗
10	株式会社ベネッセホールディングス	グローバルソーシャルビジネス室 経営推進部 担当部長	三木 貴穂
11	株式会社ホンダ技術研究所	THINK 研究室 主任研究員	佐藤 彰一郎
12	株式会社ホンダ技術研究所	THINK 研究室 研究員	友澤 幸作
13	株式会社リクルートライフスタイル	事業創造部 じゃらんリサーチセンター 研究員	三田愛
14	ブリティッシュ・カウンシル	科学・環境部 部長	ヒュー・オリファント
15	ブリティッシュ・カウンシル	プロジェクト・マネージャー	斉藤 雄二
16	ブリティッシュ・カウンシル	プロジェクト・オフィサー	秋元 七生

(敬称略、所属五十音順)

2. スタディーツアーの目的

英国の公的な国際文化交流機関のブリテリッシュ・カウンシルは、英国及びその他の国々の社会起業分野において知識や情報、アイデア等をグローバルに共有することを通して、パートナーシップやネットワーク形成を促す事で、より良い社会の実現に貢献する事を目的としてプロジェクトを実施しています。

昨年度からは、特に企業セクターに焦点をあて、今年2月のスタディーツアーでの学びをもとに、日英の企業が多様なプレーヤーとセクター、国境を超え、対話を通してつながり、協働を通して社会イノベーションを創出する事を促進するための国際的なプラットフォーム、Futures (www.britishcouncil.org/jp/japan-social-entrepreneurs-what-we-do-futures.htm)を富士通研究所、国際大学 GLOCOM、フューチャーセッションズ、Volans と共に日英で展開しており、今回のイノベーションジャーニーは、その Futures の一環として実施します。

今年度の Futures のテーマは日英共通の社会的課題である「高齢社会」。企業はどのように職場及び市場において社会イノベーションを創出し、高齢社会の問題に取り組むべきなのでしょう？今回のジャーニーでは、「企業の社会イノベーション創出」及び「高齢社会」に焦点をあて、下記3点を中心にプログラムが構成されています。

1) 企業/行政機関/市民セクター機関への訪問

近年サステナビリティや社会起業ムーブメントの世界的発信源として認識されつつある英国。今回のプログラムでは社会イノベーション及び高齢社会分野において、革新的な取り組みを展開する企業、行政機関、ソーシャル・エンタープライズなどを訪問し、英国における現状と最新のトレンドに触れていただきます。これを通し、参加者の方々に日本の枠組みにとらわれず、多様な視点で社会イノベーション、高齢社会に関して考察していただく機会を提供します。

※ 実際には訪問はせず、プレゼンテーションのみを実施する場合があります。

2) インターナショナル Futures セッションへの参加

プログラム初日、および最終日には、日英の参加者を交えて、インターナショナル Futures セッションを開催します。このセッションは、日英の社会イノベーション及び高齢社会における現状や課題、それぞれの国で開催した Futures セッションの成果を共有し、国境を越えたダイアログを通して両国におけるこれからの社会を未来志向で考え、そこから見える新たなシナリオを導き出す事を目的としています。

※ 初日のセッションは「社会イノベーション」に、最終日のセッションは「高齢社会」に焦点をあてます。

3) 英国の重要なプレーヤーとのネットワーキング

インターナショナル Futures セッションや訪問、最終日のネットワーキングレセプションを通して、参加者の方々に英国における多様なプレーヤーと交流していただき、つながっていただける機会を提供します。このプログラムに関わる方全員、社会イノベーションの創出及び高齢社会の課題解決に熱心であり、また実際にアクションを起こしている方々ばかりです。これらの交流を通して、参加者の方々に日本の枠組みにとらわれず、多様な視点で社会イノベーション、高齢社会に関して考察していただく機会を提供します。

急速に進む高齢化に伴い、日英両国において、今後ヘルスケアや福祉など公共サービスへのニーズにどのように対応していけるのか、そして既存の社会システムをどのように改善できるのかなど、取り組むべき点は多くあります。また高齢社会において、より健康で幸せな人生を長く送るために、どのような新しいサービスやシステム、プロダクトが必要となるのか、という事も考える必要があります。高齢社会の課題に取り組むために、企業が中心となり、様々なステークホルダーと対話を通して協働し、社会イノベーションを可能とする環境を整え、それぞれの持つ強みを活かしより大きな社会的インパクトを与えることができるのか。この点において、今回のジャーニーを通して、参加者の皆様が多くの示唆を得るとともに、帰国後それぞれの活動の更なる発展に活かしていただければと思います。

3. 訪問スケジュール 詳細

12月2日(日) ロンドン到着

12月3日(月)

<会場> **BIS (DEPARTMENT FOR BUSINESS, INNOVATION & SKILLS)**

Website: <http://www.bis.gov.uk/policies/public-sector-innovation/>

0830-0900

BIS に到着

0900-0940

Introductions

アイスブレイキング、自己紹介

0940-1040

The Global Context for Sustainability & Social Innovation

世界におけるサステナビリティ及び社会イノベーションの動向

<スピーカー>

John Elkington, Executive Chairman of Volans

内容:

世界における社会的、環境的な課題、及びその社会におけるビジネスの新たな役割についての概要、及びビジネスセクターにおける画期的なイノベーションの紹介。

1040-1100

休憩 (ジョン・エルキントン氏との交流)

1100-1200

The Business Case for Social Innovation

社会イノベーションのビジネスケース

<スピーカー>

Amanda Feldman & Jacqueline Lim, Volans

<http://www.volans.com/>

内容:

社会イノベーションとは？そして社会イノベーションはビジネスにとって何を意味するのか？これらに関して、ビジネスケースを交えてお話しします。

1200-1315

ランチ

1315-1345

BIS, The Innovation Space について

<スピーカー>

Annabelle Simmons, BIS

<http://www.bis.gov.uk/policies/public-sector-innovation/>

内容:

イノベーションを創出する為に造られた The Innovation Space。その歴史、チャレンジや機会について、そしてそのスペースを使用する人たちにとって、イノベーションを創出する為にどのように役に立っているのかについてお話しします。

【ビジネスの社会イノベーション創出に焦点をあてたダイアログセッション】

1345-1415

Fishbowl 第1ラウンド

日本での社会イノベーション創出に関して、下記の質問に対する、日本人参加者とファシリテーターによるダイアログ

- 1) 企業はどのように未来に備え、デザインできるのか？
- 2) 組織の繁栄のため、企業は社会イノベーション創出のための環境をどのように整えることができるのか？
- 3) どのように社会イノベーションは企業にとって、そして社会にとって意味のあるものになりえるのか？

1415-1445

World Café

第1ラウンドからの気づきを共有

1445- 1500

休憩

1500- 1530

Fishbowl 第2ラウンド

英国での社会イノベーション創出に関して、上記の質問に対する、英国人参加者とファシリテーターによるダイアログ

1530-1600

World Café

第2ラウンドからの気づきを共有

1600-1630

Overview

Fishbowl 及び World Café のアウトカムを共有

1630- 1700

Harvesting

セッションを通しての気づきや学びを整理、共有し、各自が1週間のプログラムを通して深めたい問いを見つける

1700

懇親会会場へ移動

THE DUKE OF CAMBRIDGE ORGANIC PUB

Website: <http://www.dukeorganic.co.uk/index.php>

1800-2000

ウェルカムディナー

12月4日(火)

0730

バスでオックスフォードへ移動

<会場>

SAÏD BUSINESS SCHOOL – UNIVERSITY OF OXFORD

Website: <http://www.sbs.ox.ac.uk/Pages/default.aspx>

1000-1130

英国における社会イノベーションエコシステム

<スピーカー>

Soushiant Zanganehpour, Head of Strategy and Operations at the Skoll Centre for Social Entrepreneurship

<http://www.sbs.ox.ac.uk/centres/skoll/Pages/default.aspx>

内容:

サイドビジネススクール、スクールセンターの概要、及びオックスフォード内外における活動の紹介し、ビジネスセクターが社会を変革する為に、どのような取り組みをしているのかについてお話しします。

1130-1300

自由時間

1300-1400

ランチダイアローグ

高齢社会が企業セクターにとって何を意味するのか？

<ホスト>

Professor Peter Tufano, Dean of Said Business School and other colleagues.

内容:

Global Opportunities, Threats: Oxford (GOTO)プログラムについて、その背景とビジネスセクターにとって高齢社会がもたらす市場の機会及びチャレンジについて、ビジネススクールの視点を共有し、下記ポイントについて参加者とダイアローグ。

ダイアローグのポイント:

- 1) それぞれの企業で、高齢社会が職場及び市場において意味するものとは？高齢社会は未来において機会なのか、それともチャレンジなのか？
- 2) このジャーニープログラムを通して、それらの機会/チャレンジに対して、どのようなビジネスアイデア/イニシアティブの種を得ようと考えているのか？

Global Opportunities, Threats: Oxford (GOTO) Programme ローンチイベント

1400-1410

イントロダクション – GOTO のビジョン

<スピーカー>

Dean Peter Tufano

1410- 1425

高齢社会のチャレンジ – 紹介フィルム

1425- 1435

インパクトと機会 – 3つのケーススタディーを交えて

<スピーカー>

Prof Sarah Harper, Oxford Institute of Population Ageing

1435- 1445

企業家精神への機会

<スピーカー>

Jim Hall, Executive Director of Centre for Entrepreneurship & Innovation

1445- 1500

デザインの刷新と改革 – サムスのケーススタディーを交えて

<スピーカー>

Clara Gaggero, Vitamins

1500- 1515

スピーカーによる Q&A

1515- 1525

GOTO プラットフォームの開発について

<スピーカー>

Jakub Suchy, Acquia

1525- 1530

クロージング

1730-1930

オプション 1: Deloitte Social Innovation Pioneers

<会場>

DELOITTE AUDITORIUM

Website: http://www.deloitte.com/view/en_GB/uk/about/community-investment/social-innovation/index.htm +
<http://corporateresponsibility.cmail1.com/t/ViewEmail/r/5DA61F2FC50E44CA>

内容:

Deloitte Social Innovation Pioneers は革新的なソーシャルビジネスに対して、スケールアップし、投資を受ける準備ができるようサポートします。英国において、ビジネスがソーシャルエンタープライズセクターとどのように協働し、お互いのビジネスにとって価値のある取り組みができるのかについてお話しします。また **CEO of HCT Group Dai Powell** (<http://corporateresponsibility.cmail1.com/t/r-i-kkijdl-qzdktkhr-j/>)も参加し、コミュニティー運輸業者から、賞をとるほど大規模なソーシャルエンタープライズまで、どのように成長させたのかについても共有します。

1830-2000

オプション 2:

日本における高齢社会のチャレンジ(主催:国際交流基金)

<会場>

Address: 6th Floor, Russell Square House, 10-12 Russell Square,
London WC1B 5EH

Website: <http://www.jpfo.org.uk/whatson.php#506>

内容:

日本の高齢社会の現状、特に雇用政策、社会保障制度、ヘルスエンジニアに焦点をあて、神戸大学からのスピーカーがお話します。

12月5日(水)

0930-1000

プログラムの中間レビュー (Volans)

1000

NESTA へ移動

<会場>

NESTA

Website: <http://www.nesta.org.uk/>

1030-1200

NESTA イノベーション及び公共サービスラボの紹介

<スピーカー>

Vicky Sellick, Senior Programme Manager at NESTA's Public Services Lab
<http://www.nesta.org.uk/>

内容:

ソーシャルイノベーション創出にたいする NESTA のアプローチ、実施の取り組みのケーススタディーをご紹介します。またなぜ高齢社会を取り組むべき分野として考えているのかについてもお話しします。

1200-1330

アジアハウスへ移動

<会場>

ASIA HOUSE

Website: <http://www.asiahouse.org/net/>

1330-1430

社内社会起業家とセカンド・ハーフ

<スピーカー>

Professor David Grayson, Director of the Doughty Centre for Corporate Responsibility, **Cranfield University School of Management**

内容:

社内社会起業家(企業内のイノベーター)は、社会的、環境的なプログラムを本業とは別としてやるのではなく、本業の中に組み入れ、進めていく。企業、行政、アカデミックセクターのチェンジメーカーとの協働の経験をもとに、社内社会起業家の特徴、また高齢社会に対して、彼らがどのようにアクションを起こしていけるのかについてお話しします。

1430-1530

シルバーエコノミー

<スピーカー>

Julika Erfurt, Manager, **Accenture**

<http://www.accenture.com/SiteCollectionDocuments/PDF/Accenture-Seven-Myths-of-Aging-Final.pdf>

内容:

ビジネスセクターが高齢社会へ適応することの必要性と、それが世界経済における意味とは？

1530-1730

**UK-Japan 21st Century Group 及び Accenture シニアエグゼクティブとの
ダイアローグ**

ダイアローグのポイント:

- 1) それぞれの企業で、高齢社会が職場及びマーケットにおいて意味するものとは？ 高齢社会は未来において機会なのか、それともチャレンジなのか？
- 2) このジャーニープログラムを通して、それらの機会/チャレンジに対して、どのようなビジネスアイデア/イニシアティブの種を得ようと考えているのか？

※UK-Japan 21st Century Group の詳細はこちら

(<http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja/about-us/uk-japan-relations/21st-century-group>)

12月6日(木)

<会場>

71B (based at We Are What We Do)

Website: <http://wearewhatwedo.org/71b/>

0830-1000

プロダクト/サービスを通して、どのように人々の行動を変えていけるのか？

<スピーカー>

Nick Stanhope, Founder of We Are What We Do

<http://wearewhatwedo.org/>

内容:

消費者の行動や社会的な変化を起こさせるツールとは？またビジネスはそのツールをどのように活用できるのか？特にシニア世代にインパクトを与えたプロダクト/サービスイノベーションをご紹介します。

1015-1130

ケーススタディー: The Southwark Circle

<スピーカー>

Cath Dillon, Enterprise Director, Participle

<http://www.southwarkcircle.org.uk/>

内容:

パーティシプルは一般市民の為/と共に、実質的な違いを生む公共サービスを創出する事を目的にとりくんでいます。今回は協働で事業に取り組んでいるサウスウオーク・サークルについてもお話しします。サウスウオーク・サークルはメンバーシップ制度により展開され、高齢者を対象に、コミュニティーにおいて人と人が繋がれる仕組み、また困ったことがあったら気軽に助け合える仕組みを構築しています。

1130-1300

徒歩で UnLtd へ移動

<会場>

UNLTD

Website: <http://unltd.org.uk/>

1300-1415

JWT Ethos プログラムとブランドの役割

<スピーカー>

Tony Pigott, Global CEO, JWT Ethos and Chairman, JWT Canada

<http://www.jwt.com/jwtethos>

内容:

どのように新しいプロダクトやサービスを生み出し、新たなマーケットを創出するなど、通常供給する側に焦点をあてて話される企業の社会イノベーション。このセッションでは需要側の社会イノベーションの必要性について議論します。社会的ミッションへ向け、企業は、従業員、消費者、そして幅広いステークホルダーとどのように関わっていくべきでしょうか？

1430-1700

定年退職の再定義

1. UnLtd について

<スピーカー>

Hannah McDowall, Research Coordinator, UnLtd

<http://unltd.org.uk/>

2. 社会起業家ケーススタディー

<スピーカー>

Ben Atkinson-Willes from, **Oomph! and Active Minds**

3. シニア世代へのスタートアップ支援の背景

<スピーカー>

Cliff Prior, CEO of **UnLtd**

4. シニア社会起業家－社会への潜在的メリット

<スピーカー>

David Metz, Ambassador, **Ageing Challenge Committee**

5. シニア社会起業家とのダイアローグ

<スピーカー>

Mike Jenn, **Camden Town Shed**

<http://www.camdentownshed.org/>

6. ビジネスセクターとの取り組み－メンター、社会起業家としての第2の人生をどう従業員に促進できるのか

<ファシリテーター>

Hannah McDowall, UnLtd

12月7日(金)

<会場>

BIS (DEPARTMENT FOR BUSINESS, INNOVATION & SKILLS)

Website: <http://www.bis.gov.uk/policies/public-sector-innovation/>

0830

会場に到着

【インターナショナル Futures セッション－日英の高齢社会の新たな未来】

0900-1000

Introduction

ジャーニーを通して得た気づきを日英で共有

1000-1120

Fishbowl

日英における Futures セッションのアウトカムを共有

1. 花王 & NESTA
2. 富士通研究所 & Accenture
3. フューチャーセッションズ & Volans

※Futuresの詳細はこちら (www.britishcouncil.org/jp/japan-social-entrepreneurs-what-we-do-futures.htm)

1120- 1140

休憩

1140-1200

Select Key Themes

日英高齢社会のシナリオのテーマ選出、チーム分け

1200-1330

ランチ

1330-1630

Prototyping & Scenario making

チームごとにそれぞれのテーマについて、1)ジャーニーでの学び、2)社会イノベーションのビジョン、3)必要とされるシステムチェンジ、4)もたらされる社会インパクトの4点で対話

Pro-action Café

それぞれのチームの代表者以外が移動し、その他のテーマへのインプット。

Presentation

代表者がシナリオを発表

1630-1700

Check-out

セッション/ジャーニーからの気付き、及び各自の次へのアクションを共有

1700

ネットワーキングレセプション会場へ移動

<会場>

THE EXCHANGE

1800-2000

社会イノベーション分野の関係者によるネットワーキングレセプション